

千葉市環境基本計画の今後の点検・評価手法の検討状況

2022年度からスタートした現環境基本計画の点検・評価について、現時点で以下のとおり検討している。（2023年度に実施する、2022年度実績の点検・評価から適用。）

1 本計画で目指す「望ましい環境都市の姿」、「環境の柱」、基本目標

本計画では、その推進により目指す2032年の千葉市の環境の姿を「**望ましい環境都市の姿：自然や資源を大切に、みんなでつくる持続可能なまち・千葉市**」として定めるとともに、それを環境の各分野から支える5つの「環境の柱」を設定した。

環境の柱 1	地球温暖化対策を推進し、気候危機に立ち向かう
環境の柱 2	3Rの取組みを推進し、循環型社会の構築を目指す
環境の柱 3	自然と調和・共存し、緑と水辺の良好で多様な環境を次世代に引き継ぐ
環境の柱 4	健やかで快適に安心して暮らし続けられる環境を守る
環境の柱 5	みんなで環境の保全・創造に取り組む

また、5つの「環境の柱」の達成に向けて、今後、取り組むべき対策を施策の分野別に整理して、各「環境の柱」に対応した「1－1」から「5－3」までの17の基本目標を設定し、この基本目標に基づき各種施策の方向性を示した。

2 点検・評価の実施根拠

（環境基本計画（本編P. 55）より）

目指す5つの「環境の柱」及び基本目標の達成状況、さらに施策・事業などの実施状況を客観的に評価するため、「環境の柱」と基本目標のそれぞれに指標を設定して、毎年度の数値把握を行い、その進捗状況を評価します。

「環境の柱」の指標	「環境の柱」の達成状況を、施策・事業の結果によって端的に表す指標
基本目標の指標	施策・事業の結果や、取組みの進捗状況を評価する指標

3 「環境の柱」の評価の考え方及び評価手法

環境審議会の意見等を踏まえて、17の基本目標に対する指標（44項目）だけでなく、5つの「環境の柱」にも8項目の指標を設定した点が、この計画の特徴の一つ。

この特徴を生かすため、**点検・評価に当たっては、「環境の柱」の評価を中心に据え、基本目標の評価によってそれを補完することとする。**

また、5つの「環境の柱」に設定した指標は、環境の各分野を代表する指標であり、**一般の市民に分かりやすい、直感的に訴えかける区分で評価を示す。**具体的には、例えば「星の数」による表示などを用いて、大掴みの達成状況が一目で分かるようにする。

「環境の柱」の指標一覧（８項目）

環境の柱		指標	単位	目標値
環境の柱 1	地球温暖化対策を推進し、気候危機に立ち向かう	温室効果ガス排出量	千t-CO ₂ /年	2050年のカーボンニュートラルに向けた値 (2030年度)
環境の柱 2	3Rの取組みを推進し、循環型社会の構築を目指す	市民1人1日当たりの一般廃棄物総排出量	g	さらなる削減 (2032年度)
		一般廃棄物最終処分量	t	13,000 (2031年度)
環境の柱 3	自然と調和・共存し、緑と水辺の良好で多様な環境を次世代に引き継ぐ	生物多様性について理解している市民の割合	%	100 (2032年度)
		緑と水辺が豊かだと感じる市民の割合	%	向上 (2032年度)
環境の柱 4	健やかで快適に安心して暮らし続けられる環境を守る	環境目標値（大気、水質、地下水・土壌等、騒音、有害物質）の総合達成率	%	100 (2032年度)
環境の柱 5	みんなで環境の保全・創造に取り組む	環境に配慮した行動を自ら実施している市民の割合	%	100 (2032年度)
		環境に配慮した行動を自ら実施している事業者の割合	%	100 (2032年度)

4 基本目標の指標の評価手法

基本目標の評価は、前計画の定量目標に対する手法を概ね踏襲して評価するが、「環境の柱」の評価に対して補完的な役割とすることから、その表現方法においては整理・簡素化も含めて検討する。

基本目標の指標一覧（４４項目、うち※印の３項目は「環境の柱」の指標と重複）

基本目標		指標	単位	目標値
基本目標 1-1	二酸化炭素排出削減に向けた「緩和策」を推進する	最終エネルギー消費量	TJ	2050年のカーボンニュートラルに向けた値 (2030年度)
		市域で創出された再生可能エネルギー等の量	TJ	同上
		（新規に建築される）建築物におけるZEH・ZEB件数	件	2050年のカーボンニュートラルに向けた値 (2032年度)
		使用される自動車に占める電気自動車・燃料電池自動車比率	%	同上
		省エネ型家電に関する市民意識の割合	%	向上 (2032年度)
基本目標 1-2	気候変動による影響への「適応策」を推進する	自然災害に備えている市民の割合	%	向上 (2032年度)
		熱中症に関する情報源を理解している市民の割合	%	向上 (2032年度)
基本目標 2-1	リデュース、リユースを推進する	一般廃棄物焼却処理量	t	235,000 (2031年度)
		産業廃棄物排出量	t	減少 (2032年度)
基本目標 2-2	リサイクルを推進する	一般廃棄物再生利用率	%	38 (2031年度)
		産業廃棄物再生利用率	%	向上 (2032年度)
		※一般廃棄物最終処分量	t	13,000 (2031年度)
		産業廃棄物最終処分量	t	減少 (2032年度)

基本目標		指標	単位	目標値
基本目標 2-3	廃棄物を適正に処理する	不適正排出ごみ警告シール貼付件数	件	減少 (2032年度)
		電子マニフェスト普及率	%	向上 (2032年度)
基本目標 3-1	生物多様性に富んだ生態系を保全する	貴重な生物の生息量	匹、個	974匹、995個 (2032年度)
		緑被率	%	維持（減少させない） (2032年度)
		谷津田・里山等の保全地区数	地区数	維持（減少させない） (2032年度)
		※生物多様性について理解している市民の割合	%	100 (2032年度)
		特定外来生物の防除数（計画期間での累計）	頭	2,530 (2032年度)
基本目標 3-2	豊かな緑と水辺を保全・活用する	※緑と水辺が豊かだと感じる市民の割合	%	向上 (2032年度)
		（再掲）緑被率	%	維持（減少させない） (2032年度)
		多自然護岸整備河川等の延長（累計）	m	17,449 (2029年度)
基本目標 3-3	地域の自然・文化が育む景観を保全・創造する	（再掲） 谷津田・里山等の保全地区数	地区数	維持（減少させない） (2032年度)
基本目標 3-4	自然とふれあう機会を創出する	市民農園の 箇所数・利用者数	か所、 人	36か所、1,500人 (2032年度)
		大規模な公園の利用者数	千人	向上 (2032年度)
		自然観察会等の参加者数・開催数（計画期間中の総数）	回、人	154回、2,695人 (2022～2032年度)
基本目標 4-1	空気のきれいさを確保する	大気環境目標値（健康項目）達成率	%	100 (2032年度)
		大気環境目標値（生活環境項目）達成率	%	100 (2032年度)
		低公害車普及率	%	向上 (2032年度)
基本目標 4-2	川・海・池のきれいさを確保する	水質環境目標値（健康項目）達成率	%	100 (2032年度)
		水質環境目標値（生活環境項目）達成率	%	100 (2032年度)
		污水处理人口普及率	%	100 (2024年度)
基本目標 4-3	地下水・土壌等の安全を確保する	地下水の環境目標値（健康項目）達成率	%	100 (2032年度)
		土壌汚染対策法に基づく要措置区域等が適正に管理されている割合	%	100 (2032年度)
		単年度沈下量2cm未満の地点数の割合	%	100 (2032年度)
基本目標 4-4	騒音等を低減し静けさや心地よさを確保する	一般環境騒音の環境目標値達成率	%	100 (2032年度)
		自動車交通騒音の環境目標値達成率	%	100 (2032年度)
基本目標 4-5	化学物質による環境への影響を未然に防止する	有害物質環境目標値（健康項目）達成率	%	100 (2032年度)
		PRTR法による化学物質届出排出量	t	減少 (2032年度)
基本目標 5-1	環境教育を通じて主体的に環境保全活動に取り組む人材を育成する	環境保全活動団体数	団体	向上 (2032年度)
		環境教育に関する実施事業件数	件	向上 (2032年度)
基本目標 5-2	あらゆるステークホルダーとの連携を推進する	市民・事業者・近隣都市等との連携事業数	件	向上 (2032年度)
基本目標 5-3	環境関連産業の育成に取り組むなど、環境と経済の好循環を推進する	環境マネジメントシステム等を導入している事業者件数	件	向上 (2032年度)
		温室効果ガス排出量報告書を提出している事業者の割合	%	100 (2032年度)
		環境経営応援資金の利用件数	件	向上 (2032年度)